

Q. 大学に入ってはじめて分かったことは?

- 大学の勉強は難しく、ハードで忙しい生活だけれども、毎日が想像以上に充実している。
- 高校の先生からは大学の先生は放任主義だと聞いていたが、府大の先生方は丁寧に指導を下さり驚きました。
- 府立大学では多くの人と関われる機会が多いなと思いました。友達が私学に通っていますが、人が多くて逆に友達が出来ないと言っていました。府立大学は人の数もそれほど多くないので、他学部との人とも知り合いになれるところがいいなと思いました。
- 高校までで習っていた内容が受験勉強であって、学問ではなかったこと。
- 勉強は、渡されたものを繰り返すのではなく自分で意欲的に知識を吸収していくこと。自由と言うのはきちんと義務を果たして初めて手にできること。常に全力で活動しない人に「次がある」ことはないこと。
- 同じ大学生といえども、文系学部や他の専門資格を目的とする学科とは全く異なる生活スタイル、勉強スタイルになる。

Q. 高校のときに知っておきたかったことは?

- 高校では、受験に関する情報が多く、大学でどんな研究をやっているのかという情報があまりなかったように思います。受験生の中には、研究内容よりも学科名で志望校を決める人もいます。受験勉強をする前の段階で、大学で何をしているのかについて知る機会を増やすことは大切だと思います。
- 結局、生物も化学も物理も使うから全部勉強する必要があるということ。物理、化学、生物を（高校レベルでいいから）ひとつお理解しておく、ためになる。

Q. クラブ活動で感じたことは？

京都府立大学には体育会の運動部から文化系サークルまで沢山の団体があります。生命分子の学生が中心のサークルもあります。先輩達の声聞いてみましょう。

- すべて学生でやるので、やりがいがあり、楽しいです。
それぞれ考え方の違いがあって衝突することもあるが大変ですが、学ぶことも多いです。
- 縦にも横にも、交友関係が広まり、楽しい。
他学科、他回生と繋がれるいい場で、役立つ情報も交換できる。
- 各イベントや学外活動はすべて学生が取り仕切るものなので、責任の重さを感じます。
部活動への入退部は、それほど難しいものではありません。
嫌になればすぐに辞めることもできます。
しかし、そこで頑張っ続けて続けることで新しいものの見方を手にすることができると思います。
- 学園祭や合宿などで、お金のことや、予約の仕方など初めて知ることも多かった。
- 多くが学生主体の団体なので、自分から意欲的に取り組まなければ得られるものはないと感じた。
- 様々な人と出会うことができ、その人の考え方や行動から良い面も悪い面もたくさん学べました。
私はサークルでイベント運営を行いました。一緒に仕事をし、円滑に作業を進めるためには、こまめな情報共有と活動中の雰囲気や状況を良く保つことが大切ということ学びました。

Q. アルバイトをやってみて感じたことは？

生命分子は低学年のカリキュラムも忙しいので、学業との両立は結構大変なようですが、クラブ活動と同様、貴重な経験の場でもあるようです。

- 家庭教師をしていて、先生方の大変さを痛感しました。
(やる気のない子にもものを教える事ほど、しんどくて辛いことはないです。)
- アルバイトと勉強の両立は想像以上に大変でした。
- お金を稼ぐことが大変であるとよくわかった。
娯楽は親にもらっているお金ではなく、自分で稼いだお金から出そうと思った。

- 塾講師や知り合いの本屋の手伝いなどをやりましたが、いわゆる「ほうれんそう」といったことを実践したり、働いてみないとできない経験をしました。
- 実際に社員の人といっしょに仕事をすることによって、社会に出たときの具体的なイメージがつかみやすくなった。他大学の学生とも仲良くなれたり、パートさん、社員さんなど年の離れた人や、自分とは全く違った生き方をしている人とも交流できるので、人生の勉強になった。
- 世の中には本当にいろいろな考えを持った人がいると実感します。買い物する時に,"これでバイト何時間分"とか思ってしまいます。数年後には毎日働くことを考えると無理にしなくても、とも思います。

Q. ひとり暮らしはどんな感じ？

親元を離れて一人暮らしをしている人が約3割です。
一人暮らしというのはやはり大きな成長のステップになっているようですね。

- つくづく親のありがたみを感じる。実家は神！
- 自分は散々甘やかされてきたんだなあ、と実感させられます。本当に、すぐ帰りたくなる(笑)。それでも、思っていたより大変じゃなくて、自由で楽しいものです。
- 平日で講義がある日には寝坊するわけにはいきません。私は、時計を二ヶ所に、アラームの時間をずらして設置し、タイマーで証明が付くようにして、カーテンを半開きのままにしておいて朝日が差し込むようにすることで対策しています。
- 自己管理の大切さを感じました。
- 今まで家事をほとんどやったことが無かったため、多少の心配はあったが、自分のペースをつかめば大丈夫になった。一人暮らしをやってみて、母への感謝の気持ちと生活リズムの大切さを感じた。
- 家を選ぶときには、近所や大学までの道を歩いてみて、付近の様子や近所の店が便利かどうかを体験してみる事が重要だと思います。

Q. 実家から通ってみて感じることは？

自宅通学が多いのも京都府立大の特徴です。電車で滋賀や大阪から通っている人も多いですし、京都市内は自転車でもどこでも行けますからね。
しかし、同じ自宅通学でも高校の時とはずいぶん違うようです。

- どうしても帰る時間が遅くなる。母の晩御飯をありがたく感じるようになった。
- アルバイトや実験などで帰宅時間が遅くなるので、ほとんどテレビも見なくなり、ごはんも家で食べなくなった。一人暮らしの友人の話聞いて、家事などの世話をしてくれる親に対して感謝するようになった。
- 長距離通学の工夫というほどではないですが、前日に次の日の用意をしています。何事も前もって準備をすることが、実りある一日を過ごす鍵だと思います。
- 電車の中で過ごす時間が決まっているので、その時間内に何が出来るかを考える習慣がつきます。同じ30分でも、家で過ごす場合と比べ、電車の中にいる方が集中力が高くなります。多分、電車降りるまでにここまでは終えたいという目標が自分の中にできるからだと思います。
- 今日は電車でこれをしようというのを決めておくようにしています。この本を持って行って読もうとか、少し疲れているから寝ようとか、何でもいいですが、やることだけは決めています。
- 線路沿いという景色は常に変化し続けていて、観察対象としては面白いものです。それを観察せずに電車内で寝るのはもったいないことでしょう。